

※令和7年1月29日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

生物多様性ながれやま戦略 重点プロジェクトに対する現状の評価結果

	プロジェクト	実施内容	場所	目標	現状の評価
基本方針A 生物多様性の保全・回復	I モニタリングのデータ収集・分析・評価	市民団体等との協働により、動植物の生育調査を行います。	全拠点	2023(平成 35)年度までにモニタリング調査結果をまとめ評価します。	6 つの調査対象項目を設け、観測した種数や個体数を表やグラフ化し、2022.6 に2011～2020 をまとめた調査報告書第3版を作成した。
	II モニタリング調査の評価結果に基づく活用	モニタリング調査の評価結果に基づき、活用方法を検討します。	全拠点	I で評価した内容を元に、活用方法を検討し、次の戦略見直し等に反映します。	I 調査報告書や例年実施するモニタリング調査報告により、戦略見直しの評価材料として使用する。
	III モニタリング調査及び里山ボランティア講座の開催	市民団体等との協働により、モニタリング調査員や里山ボランティア養成講座を開催します。	市内	モニタリング調査員や里山ボランティア養成講座を開催します。	モニタリング調査員の新規募集、及び既調査員の知識や意欲向上に向けた講習会を実施している。
	IV 里山における県や関係諸団体との連携	県や市民団体など、関係諸団体と連携により、里山の保全に努めます。	①	県や市民団体などと協働・協力するとともに、市の施策への協力を求めます。	生物多様性シンポジウムを市内の市民団体に委託して実施している。今後の保全事業における協力等、各手段を用いて連携強化を図る。
	V 河川における国や千葉県、流域自治体との連携	手賀沼水環境保全協議会や利根運河協議会(注)などとの連携により、生態系に配慮した川づくり、水量、水質の保全や改善に努めます。	⑤⑥⑨	手賀沼水環境保全協議会や利根運河協議会(注)などと協働・協力するとともに市の施策への協力を求めます。	手賀沼水環境保全協議会の事務局と年2回水質調査に行い現状を共有するほか、利根運河協議会(注)と協議会の今後の運営方針に合わせ、協議を重ねている。
	VI 生活排水対策	河川に流入する生活排水対策を推進します。(公共下水道及び合併処理浄化槽の普及による浄化対策など)	⑤⑥⑨	下記 BOD(※20)を 2026 (平成 38)年度までに維持もしくは達成を目指します。 大堀川:2.6mg/L 以下を維持 利根運河:3mg/L 以下を達成 坂川:1.8～1.9mg/L 以下を維持	目標を達成、維持できていないため、川の保全に加え、事業所や各家庭での生活排水の対策が必要となる。関係団体と問題意識の共有を行う必要がある。 R4 計測値 大堀川:2.9 利根運河:3.8 坂川:1.2、2.0
基本方針B 生物多様性の持続可能な利用	I 市内の緑化	まちなか森づくりプロジェクトやグリーンウェイブ活動等を実施します。	市内	1 年間に 500 本以上の植樹を目指します。	継続して事業実施している。植樹の種類や場所の形態により本数が増減する。 R2 239 本、R3 552 本(市道沿いの設置で 367 本計上)、R4 172 本
	II 連続した緑の創出	グリーンチェーン認定面積の増加に努めます。	市内	開発の事前協議において、事業者グリーンチェーン認定制度を周知します。	認定制度は継続して行われているが、区画整理の規模や大規模開発の申請件数によって増減が大きい。令和元年度を境に大規模開発の減少が原因と思われる認定率の低下がみられる。
	III 谷津環境の保全・再生	稲荷神社裏の谷津等の整備手法について、自然環境の保全と市民が親しめる活動の場としての両立を検討します。	④	保全団体等と手法を検討し整備します。	おおぐろの森を中心に活動する市民団体里山ボランティア流山と連携し、断続的に事業実施している。R4 に生物多様性シンポジウムを実施した。
	IV 近隣大学との連携	大学と連携した保全活動を進めます。	⑦	東京理科大学の理窓会記念自然公園の保全について連携します。	モニタリング調査において東京理科大学の学生に調査員として活動いただいている。今後、大学に加え、地域のモニタリング調査員や若い世代を巻き込んだ保全事業の実施を検討している。
基本方針C 環境学習機会の創出	I 生物多様性関連イベントを実施	市民に対し、生物多様性の大切さ、おもしろさを啓発するためのイベントを実施します。	市内	毎年 1 回以上実施します。	年2回、春と秋に生物多様性啓発に係る啓発事業を実施している。春は、ナチュラリストを講師に迎え親子でフィールドワークを行う自然体験ツアー、秋は市内団体に依頼して講座やフィールドワークを実施している。
基本方針D 基盤情報の整備・充実	I 生物多様性情報コーナー(仮称)	本市の生物多様性に関する情報を収集、整理した情報コーナーを設置します。	市内	公共施設の情報コーナーの設置を検討します。	クリーンセンター、流山おおたかの森駅構内、運河駅構内、そして例年実施する市の鳥パネル展に合わせて、生物多様性に係るパネル展示を行っている。
	II GIS(※21)やインターネットを利用した生物多様性情報の公開	GIS やインターネットを利用し、新しい基盤情報の公開方法を検討します。	市内	GIS やインターネットを利用した生物多様性情報の整備を検討します。	市ホームページにおいて、生物多様性、及び生物多様性ながれやま戦略について掲載している。

(注) 利根運河協議会:令和6年度から、自然と人を育む地域づくり推進協議会(利根運河・江戸川・利根川地域)に名称を変更しています。